

2013年9月20日－21日 C班会議メモ（文責：東北大・須藤）

開催場所：新潟県佐渡市

出席者：阿多・関谷（産総研）、山内（新潟大）、小林（大阪大）、石田・須藤（東北大）

①阿多グループ進捗報告（報告者：阿多）および議論

- ・第3回総会（プラハ、10月末）に向けた、WG3 (Biomimetics Optimization)への取り組み
- ・標準化しようとしているのは形の模倣（構造最適化）の部分だが、この分野は既に産業界でもかなり行われているため、いろいろな特許が絡んでくる。特許が絡むもの標準化する場合、ロイヤリティーの問題がある。含まれる特許がすべて許諾されないと標準化にならない。
- ・認証をとらないとビジネスとして成り立たない状況においては、Bio-TRIZ は認証につながる（Bio-TRIZ を使うことが認証につながる）ものにしておかないといけない。
- ・標準になるまでの技術仕様書を出していくときから日本として関わっていかないといけない。
- ・現在、標準化に関してはA班がいろいろやっているが、社会とのつながりという点で考えると、C班がもっとやるべき。

②石田グループ進捗報告（報告者：須藤）および議論

- ・ライフスタイルからテクノロジーを抽出していくために、コンセプト化の手法とライフスタイル・オントロジーの手法を開発している。
- ・コンセプト化による結果とオントロジーによる結果の違いを見ていく必要がある。（石田）
- ・A班DBとつながるだけでは足りない。もっと他のDBも利用していく必要がある。（石田）

③山内・小林グループ（報告者：山内）および議論

- ・Bio-TRIZ のデモ版を作るべく、すごい自然のショールームだけでなく、Ask Nature からも情報を引っ張ってきている。
- ・石田グループから出てきた新しいライフスタイルをテクノロジーに展開するときの、解決したい問題とそれによって生じる課題をマトリックスにして、それらが交わるセルにいくつかの解決原理が入り、解決原理それぞれに自然のすごさの情報がつながっているようにする。
- ・認証ではテクノロジー・プルとテクノロジー・プッシュの2通りがあるが、Bio-TRIZ はテクノロジー・プルの流れの中で使われるようにしたい。テクノロジー・プルの流れの中では、特に、「生物の解の明確化」「原理の抽出」の部分が重要で、ここをちゃんとしているかが本当のバイオミメティクスとまがいものの違いなので、Bio-TRIZ を使うことでその部分をちゃんと押さえられるというようにしていく。→これのわかりやすい例が欲しい。（石田）
- ・外部業者に依頼して12月中旬にフレームワークができる予定。

④その他

- ・10月25日の全体会議では、来年の中間報告に向けて、ライフスタイルからのテクノロジー抽出、Bio-TRIZ によるテクノロジーの具体化までどのようにつながるのかをC班として示す必要がある。（石田）

・ C 班としての報告書（上限 4 ページ）を 10 月 4 日までに提出する必要があるので、各グループから上限 2 ページくらいの報告書を 9 月 28 日までに石田（cc：須藤）に提出する。